

AI活用の乗合タクシー好評

5日間で延207人利用

オリコンサルと伊那市ら実証実験

オリエンタルコンサルタンツは、長野県伊那市、未来シニア（北海道函館市、松原仁社長）と共同で「AI最適運行・自動配車サービス（ドアツードア乗合タクシー）」実証実験を12日から16日までの5日間実施した。延べ207人が通院や買い物、交流、レクリエーション、文化活動、行政手続きなどの移動に活用。利用者から好評を得た。

同社は実験での運行状況や利用者アンケート結果から、導入への課題や求められるサポートを導き出した。伊那市は、高齢化や過疎化が進む地域での公共交通の課題解決に向けて、AI（人工知能）を活用してオンデマンドでタクシーを配車する、未来シニアの乗合タクシー運行サービス「SAVS（サブス）」を導入。高齢者などの移動支

援を行う中山間地域における新しい交通システムの構築を目指している。

今回の実証実験は同市の一部地域の住民約5000人を対象に、地域内、地域と市街地、市街地内における快適で安全な移動サービスを4台のタクシーにより提供しようというもの。オリエンタルコンサルタンツは、企画からコールセンター（予約受付）の運営を行い、その評価や期待を計るアンケートを実施した。

交通計画を専門とする信州大の高瀬達夫准教授は今回の実証実験について「ドアツードアのサービスは、高齢者の移動抵抗がなくなるため、外出機会を多くすることが期待できる」としたほか、主

な目的地が限られる中山間地域の高齢者移動に対して有効なサービス形態であると指摘。「AI技術の熟度が増せば旅行時間や待ち時間などの予定時間の精度が向上し、利用者の満足度も上がることが期待できる」とコメントしている。